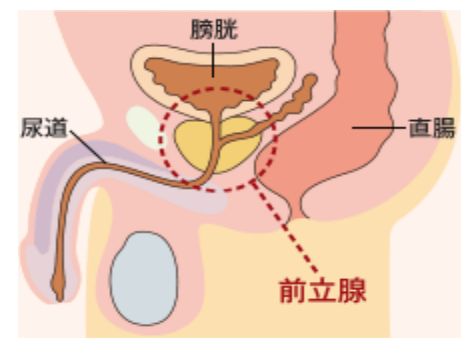
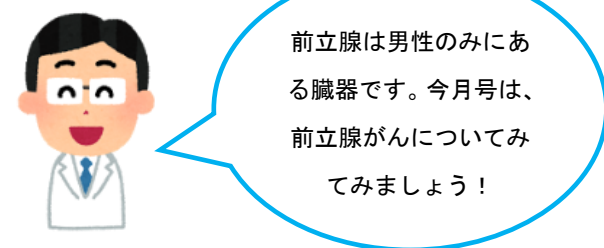


9月 前立腺がんについて知ろう!

1 前立腺がんとは?

前立腺がんは、前立腺の細胞が正常な細胞増殖機能を失い、無秩序に自己増殖することにより発生します。早期に発見すれば治癒することが可能です。また多くの場合比較的ゆっくり進行します。前立腺近くのリンパ節や骨に転移することが多いですが、肺、肝臓などに転移することもあります。

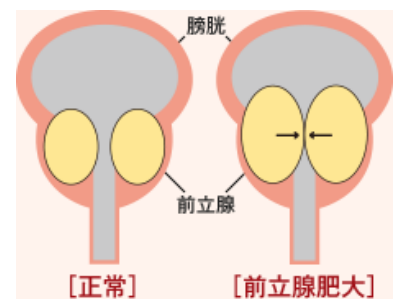


2 症状

早期の前立腺がんは、多くの場合自覚症状がありません。しかし、尿が出にくい、排尿の回数が多いなどの症状が出ることもあります。進行すると、上記のような排尿時の症状に加えて、血尿や、腰痛などの骨への転移による痛みがみられることがあります。

3 類似する疾患

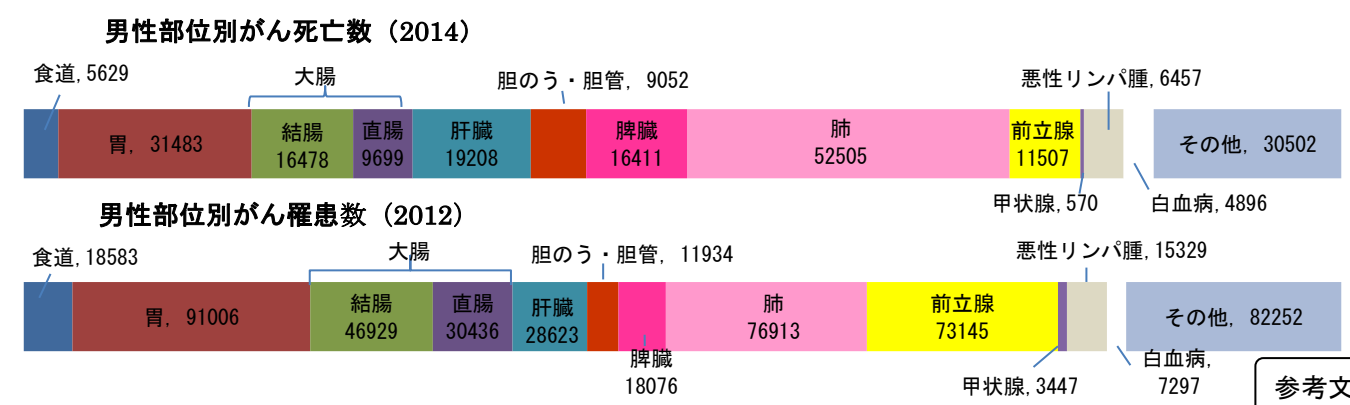
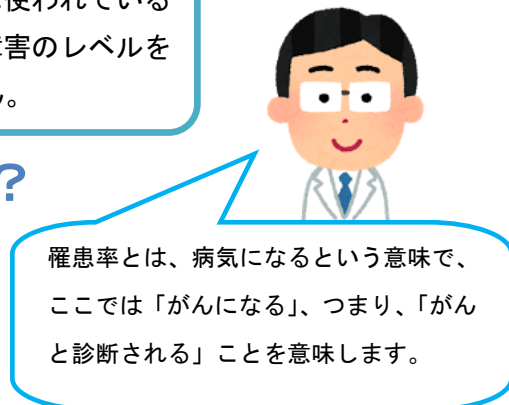
前立腺肥大症は、前立腺の細胞数が増加する良性の疾患で、高齢に伴い増える病気です。尿が出にくい、尿の切れが悪い、排尿後すっきりしない、夜間にトイレに立つ回数が多い、我慢ができずに尿を漏らしてしまうなどの前立腺がんと似ている排尿の症状があります。前立腺がんと同時に起こることもあります。



おしっこの悩みを抱えている方へ。排尿障害を把握するために世界的に使われているのが「IPSS」と言われるスコア表です。アンケート形式で自分の排尿障害のレベルを知ることができます。気になる方は確認してみても良いかもしれません。

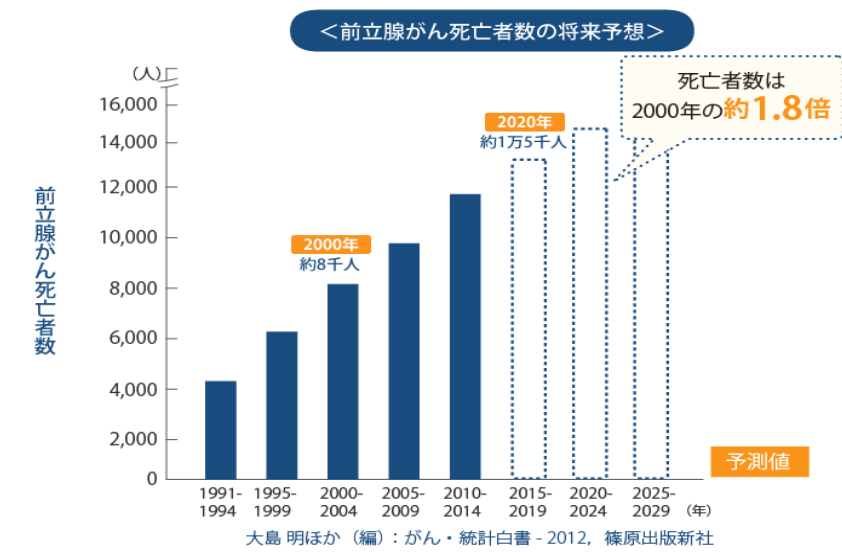
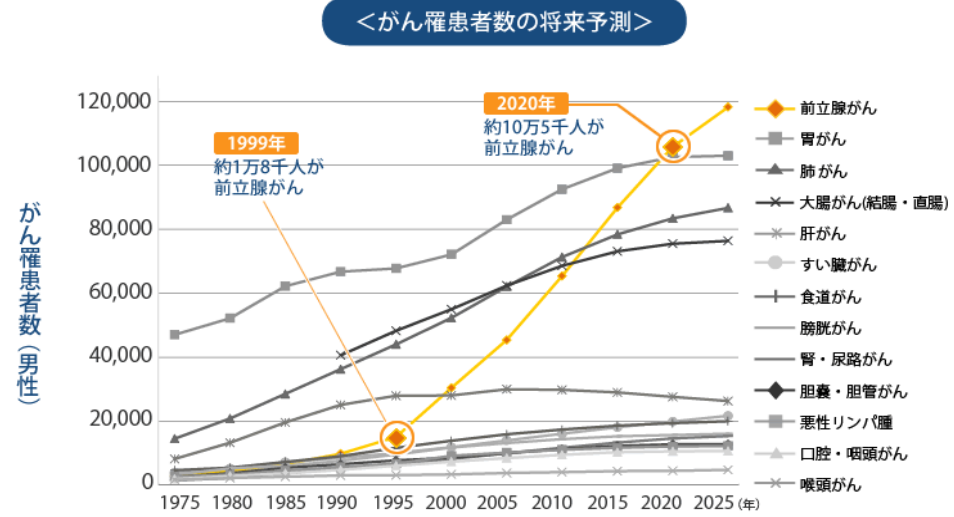
4 どれくらいの方が前立腺がんになる?

前立腺がんと新たに診断される人数は1年間に10万人あたり117.9人です。年齢別にみた罹患率(りかんりつ)は、60歳ごろから高齢になるにつれて顕著に高くなります。男性では胃がん、大腸がん、肺がんに次いで4番目に罹患率が高いがんです。

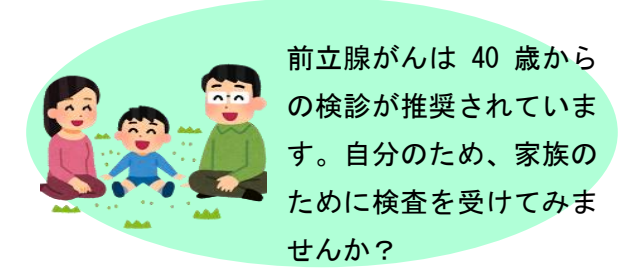


5 前立腺がんは増えている?

日本においては、前立腺がんはもともとあまり多くみられるがんではありませんでした。しかし近年、もっとも増加しているがんのひとつとして注目されています。2020~2040年(年平均)には前立腺がん罹患数は105,800人となり、男性がんのうち、第一番目の罹患率になると予測されています。また、前立腺がん死亡数は、2020~2040年(年平均)には14,700人となり、2000年の約1.8倍になると予測されています。



前立腺がんの増加の原因としては、「日本人の高齢化」、「食生活の欧米化」、「PSAの検査の普及」などが考えられています。



6 検査について

- 前立腺特異抗原 (PSA) 検査**
血液検査で前立腺がんの可能性を調べるスクリーニング検査のひとつです。前立腺がんになると血液中の前立腺特異抗原 (PSA) という物質が増加しますので、このPSAの値が早期発見に必須の検査項目になっています。PSAの値に異常があれば、より詳しい検査が必要になります。
- 直腸診・経直腸的前立腺超音波検査**
医師が肛門から指を挿入して前立腺の状態を確認する検査(直腸診)や超音波を発する器具(プローブ)を肛門から挿入して前立腺の状態を調べる検査(経直腸的前立腺超音波検査)を行います。
- 前立腺生検**
自覚症状、PSA値、直腸診、経直腸エコーなど前立腺がんの疑いがある場合、最終診断で前立腺生検を行います。
- 画像診断**
画像診断ではCT検査、MRI検査、骨シンチグラフィ検査などを必要に応じて行います。